

会議録

- 1 題 目 令和元年度岩手県立花泉高等学校 第1回学校評議員会
- 2 日 時 令和元年6月25日(火) 15:40~17:00
- 3 会 場 花泉高校会議室
- 4 出席者 学校評議員5名
花泉高職員8名
- 5 協 議 「令和元年度岩手県立花泉高等学校の学校運営について」 進行 副校長
- (1) 令和元年度学校経営計画(校長)
 - (2) 令和元年度学校概況説明(副校長 口頭)
 - (3) 令和元年度総務課重点目標(総務主任)
 - (4) 令和元年度教務課重点目標(教務主任)
 - (5) 令和元年度生徒指導課重点目標・保健厚生担当重点目標(保健主事)
 - (6) 令和元年度進路指導課重点目標(進路指導主事)
 - (7) 令和元年度基礎学力確認調査結果にみる本校生徒の学力の傾向(教務主任)
 - (8) 平成30年度進路動向(進路指導主事)
 - (9) 資料編説明(学校要覧抜粋版・活動記録)(副校長)
 - (10) その他 なし

5 意見交換

- ・評議員A ▶教育として、地域全体で連携できないか。また地域の災害課題である水害に着目した訓練はできないか。
→昨年度は、避難所を設置した訓練を行った。今年度は、南消防署に防災マップを説明してもらいながら、どこに逃げるかなどのワークショップを計画している。
- ▶職場体験を中学校では、市教委の指導により、これまでの3から5日間になる同じ花泉地域にインターンシップとして企業にお願いするのであれば、何か連携して行えないか。
→高校では、進路に結び付けることを意識させ、進学者にも全員体験させている。中学校の働くこととは、という体験的内容より踏み込んでおり、目的が異なる。
- ・評議員B ▶コンプライアンスやPDCAなど企業の経済用語が、学校経営目標にでてくるが、スピード感をもって、ノルマを達成するのは、先生方は大変なことだと思う。
- ・評議員C ▶清掃がきちんとされており、校舎がきれいである。市民センターでの花高生ボランティアが温かい。花泉を背負うのは花泉の生徒である。検定に力を入れ、これができる！とアピールできる生徒を育てて欲しい。オープンスクールに命を懸けて欲しい。
- ・評議員D ▶なぜ今あいさつ運動か、小学生にはあいさつの大切さを教え、あいさつできるが、中学生、高校生になると声をかけても返さない生徒もいる。(だから、あいさつが大切である。)
- ▶水害の話がでたが、現在の避難所は中学校である。高いところにある高校がいいのではないか。高校は県の管轄だから難しいと以前言われたが、一緒にすることが必要ではないか。
- ・評議員E ▶花泉地域にとって花泉高校は必要である。企業体験も生徒自身に任せることも必要である。防災教育について機会をみて、震災遺構を見せることも必要ではないか。